

## 結束の固さだけは今も続いている

### 第37期 田中裕介

昭和54年10月全国大会の予選が終り、37期8人に代がハバトタッチされた。37期は最初から8人が揃っていた訳ではなく、1年生入部当時は水口・森江・杉本・田中の僅か4人からのスタートだった。同期の人数の少なさに危機感を抱いていた4人は入部当初から手当りしだいに声をかけ、自分達がされた以上に執拗な勧誘を繰り返した。しかし、苦勞して仮入部を取りつけても先輩方が優しく教えるラグビーの基本中の基本「スクラムフォーム」でくじけて辞めていった者多数。それでも諦めずに勧誘を続けた結果、木本・篠田・東・荒木の4人が入部し、8人となったのである。

昭和55年1月、最初の試合は氷の張る八幡山明大グランドでの新人戦、相手は都立日比谷。足を手術・入院中だった田中に代わり森江がキャプテンを代行。森江は人数が足りないため、退部した1年生に頭を下げて試合出場を懇願。何とか棄権は免れたがそれでも13人、結果は大敗だった。2戦目も新人戦で相手は都立松原。前半、入部間もない荒木がうれしい初トライ。しかし、後半になって千歳が2人足りないことに気づいた相手はライン背後にパントで攻め続け、4対20で敗退、多難なスタートだった。

2月、都立小石川工業と練習試合(横河電気グランド)。大池勝、佐藤臣司両先輩の助けを借り、何とか15人揃えて1点差で初勝利をあげた。

4月、3年生になった。監督が平井先輩から菅谷先輩に代わった。1年生が何と15人も入部、これも過去の部員勧誘実績の賜物か。

春闘で京王線がスト中でも自転車で来て練習をした。成城学園と練習試合(同校グランド)、6対4で勝利。関東大会(大泉高校グランド)、相手は都立葛西工業、0対12で敗退。

6月、梅雨の季節。雨でグランドが使えない日は部室横の『第2グランド』で“闘牛”をよくやった。普段は淡々と練習をする水口や篠田がこの時を待っていたかのように張り切りだす。

8月、1日～7日に合宿。山中湖の福寿荘からラグビーのメッカ菅平にある初音館に場所を移した。部屋は4人づつ位の個室で快適だったが、ジュースは今まで同様、当然禁止。追い討ちをかけるように顧問の高野先生が塩の錠剤を飲めと言う。練習後の帰り道、スポーツ飲料の試飲をしていた。「ゲータレードはジュースではない」「買わなければいい」などこじつけて飲んだ者多数、あのほのかな甘味は忘れない。合宿後半にダブルヘッダーで練習試合。午前は駒場東邦高校、プロップの東が念願叶って夢に見たウイング、森江がセンターで出場。東は2トライ、森江は相手の両センターをタックルでノックアウトするなどの活躍で40対0と快勝。午後は京都の強豪東山高校、惜しくも4対12で敗れる。

9月、練習試合。都立千歳丘・都立新宿に2～30点差で勝利。日大鶴丘には0対4で敗れる(全て相手グランド)。

10月、最終目標である全国大会予選が始まった(成蹊大学グランド)。抽選により2回戦からで、相手は1回戦を50点差以上で勝ってきた都立田園調布。前半、試

（ 第 37 期  
同期生からのことば ）

勧誘の翼にはまって入部したけれど、千歳高校ラグビー部であったことは、大きな財産を得たことであると感謝しています。

東光俊

監督、先生、諸先輩方のご指導には深く感謝致します。ラグビーを通じて培った37期の友情と結束は永遠に続くであろう。

荒木栄助

山中湖合宿最後のオールメンで走り切った事。あんなに辛く、貴重な体験はない。石瀬さんのアゲインの涙声は忘れない。

篠田広司

年の瀬になると高校のことを思い出すとともに仲間の面々が思い出されます。楽しい思い出をありがとうございました。

森江昭夫

ふとしたことで始めたラグビーがこんなにも大きく自分の人生に跳ね返ってくるとは思わなかった。続けていてよかった。

田中裕介

ラグビーは私にとって高校時代唯一の思い出であり色々な事を教えてもらった。が、授業中寝ることは教わりたくなかった。

木本剛史

千歳での3年間、今思えば苦しくもあり楽しくもあり。しかし、顧みると無心に楕円球のみ追いかけていた頃が懐かしく。

杉本浩之

合前には腹の具合が悪くなる木本がここ一番の踏ん張りでも左ブラインドをつきトライ、田中もトライし、10対0としたが、後半10対14と逆転された。しかもノーサイド寸前に自陣ゴール前10メートルまで攻められ、得点されれば万事休すの場面でボールが回った相手センターに田中がタックル、こぼれ玉を2年生鈴木が80メートル独走のトライで同点とした。ゴールを決め誰もが奇跡の勝利と思ったが…。試合終了後抽選によって辛くもベスト16になった。

3回戦の相手は現東芝府中のプロップ反町がいた優勝候補の本郷高校。最初にスクラムを組んだ瞬間、今までとはまるで違う重さを感じた。スクラムトライを何本もされ、しかたなくバックスがスクラムに参加したりもした。何度も練習したサインプレーをすることもなく、50点以上の差をつけられ試合は終わった。

同期の人数が少なく、これ以上辞めてもらったら困るといふことからか、この期は仲間意識が特に強かった。当時からの結束の固さだけは今も続き、4人で始まり8人で終わったあの3年間を毎年集まっては今も語りあっている。

○37期メンバー

- |   |   |   |   |   |   |   |    |   |    |    |    |    |    |    |   |     |
|---|---|---|---|---|---|---|----|---|----|----|----|----|----|----|---|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8  | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 下 | *印は |
| 東 | 中 | 神 | 篠 | 出 | 水 | 野 | 森  | 杉 | 木  | 妻  | 田  | 鈴  | 高  | 荒  | 聡 | 37  |
| 光 | 村 | 保 | 田 | 井 | 口 | 島 | 江  | 本 | 本  | 島  | 中  | 木  | 山  | 木  | 一 | 期   |
| 俊 | 宏 | 雅 | 田 | 直 | 口 | 厚 | 昭  | 本 | 本  | 康  | 裕  | 辰  | 高  | 栄  | 城 |     |
| * |   | 英 | 司 | 人 | 俊 | 志 | 夫  | 剛 | 剛  | 人  | 介  | 夫  | 士  | 助  | 倉 |     |
|   |   |   | * |   | * |   | (副 | 史 | 史  |    | (主 |    |    | *  | 三 |     |
|   |   |   |   |   |   |   | 主  | * | *  |    | 将  |    |    |    | 益 |     |
|   |   |   |   |   |   |   | 将  |   |    |    | *  |    |    |    | 田 |     |
|   |   |   |   |   |   |   | *) |   |    |    |    |    |    |    | 鉄 |     |
|   |   |   |   |   |   |   |    |   |    |    |    |    |    |    | 也 |     |